

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372300794		
法人名	有限会社ナオ		
事業所名	グループホームらく		
所在地	愛知県瀬戸市共栄通2丁目42番地		
自己評価作成日	平成24年11月24日	評価結果市町村受理日	平成25年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JijyosyoCd=2372300794-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かねてビル2階		
訪問調査日	平成24年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>力を入れている点・利用者様々々において普通の生活を普通にできるように事業所を目指している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物や散歩等外出を行うことにより、様々な刺激(暑さ、寒さ、眩しさ等)を受けてもらうようにしている。 ・本人の能力に応じできるだけ自立して生活してもらうようにしている。 ・一年の要所要所での行事を大事にしている。 ・共同生活者として利用者さん同士が知らず知らずのうちでも助け合っているように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は幹線道路より一歩入った住宅地にあり、静かな環境である。民家を改造したホームは玄関からリビングに通じ、リビングを取り囲むように居室が配置され、一般家庭の雰囲気が感じられる。職員は理念を日々確認し共有しながら支援に努めている。入居者が普通の生活が普通に出来るようにすることをめざしている。言葉がけや支援方法を考え、本人の保有能力に応じ、自立した生活が出来るよう支援している。サービスのレベルアップを図るため、研修や行事、安全等について担当職員を決め、それぞれが責任を持って計画し実施をしていくなど、管理者と職員が一丸となって運営の改善を図っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念が存在し、各職員に理念が記入してあるカードを配っている。職員はその理念を念頭におき日々のサービスを行っている。	事業所独自の理念を玄関に掲示するとともに職員は理念が記入されたカードで確認しながら、日々の実践に努めている。気付いた事で出来る事はすぐ改善したり、ミーティングで話し合いながらサービス向上につなげている。	
2	(2)	愛知県瀬戸市共栄通2丁目42番地 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方から野菜や花のおすそ分けをいただいたり、散歩の時に会話したりしている。又運営推進会議にも近隣の住民の方が参加してくださっていて、災害の際は協力していただける体制もできている。	町内会に加入し、散歩の時などに近隣住民と会話をしたり、季節の野菜や花をいただくなど交流を深めている。災害時は近隣の住民による「避難場所での見守り」の役割分担等の協力体制が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お祭りや運営推進会議等の場では話の中でそういう事をお話することはあるが、あまり活かしきれていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営に関することを積極的に会議でとりあげ、そこでた案を積極的に取り入れサービス向上に活かしている。	会議は市職員、地域住民の代表の参加を得て2ヶ月に1回開催している。意見や提案を取り入れ、サービス向上に活かしている。利用者や家族にも参加の案内を出しているが参加が得られていない。	利用者や家族の参加を促し、運営推進会議を有意義な会にする為に、参加案内の中に、前回の内容や会議の意義などを盛り込み参加意識を持っていただけるような工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも参加してくださっており、事業所の実情を知ってくださっている。分からないときは相談し、足りないところや直した方がいいところは積極的に教えてくださるような関係を築けている。	市職員が運営推進会議に出席し、市の情報や事業所の実情の情報交換がある。市職員とはなじみの関係が継続されており相談等しやすくなっている。運営規定の大幅見直しをした時には、適切な指導が得られた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1度のミーティングで、自分たちの行っているサービスの中で身体拘束はないか全員で話し合っている。スピーチロックを含む全ての身体拘束を行わないようにしている。しかし、スタッフが1名の時のみはホームの玄関を施錠している。	月1度のミーティングで身体拘束や虐待の有無について話あっている。スピーチロック等日常で気づいた時はその都度注意し合っている。スタッフが1名の時は施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1度のミーティングで、日頃のサービスを提供する中で気付かないうちに虐待をしていないかを確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修にも参加し、内部でも学ぶ機会がある。ここの必要性や関係者との話し合いはいまだもっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不明な点や疑問点は十分に説明し、理解していただいてから契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族と密に連絡を取り合い、それらを記録して全職員で共有している。又運営にも反映させている。しかし、外部者へ表せる機会はない。	家族とは月1回の定期連絡や面会の機会を通じて意見や要望を聞き把握している。変わった事があればすぐ連絡を取り対応をしている。意見や要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見や提案を聞き、積極的に運営や業務内容に反映させている。	月1回のミーティングで意見を出して話しあっている。職員を8つの担当に分けて、担当者が課題や改善策を提案し、職員が自由に発言できる雰囲気でのミーティングが進められている。管理者は結果を記録し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績、勤務状況を把握している。労働時間も本人の希望にのっとって決めている。給与水準についての本音は分からない。やりがいを感じている職員もいればいない職員もいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量は把握できている。法人内の研修は頻繁に行っている。しかし法人外の研修については、あまり参加できていない。働きながらのトレーニングが主である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の同業者とは頻繁に交流する機会がある。だが、勉強会等の活動はあまり行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	じっくりと話を聞き、今後の生活を安心して送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	じっくりと話を聞き、なんでも言っていただけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人の状況、状態を考慮しその時に必要な事を見極めている。と思う。他のサービスの利用をおすすめした事は一度もない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、片付け、掃除、買い物、通院、洗濯、洗濯物干し、洗濯物取り込み、布団干し、ゴミ捨て等生活に関するあらゆる事を出来る方には職員と共同、若しくはご自分で行っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や散髪、爪切り等行っていただけのご家族には積極的に行っていただいている。なにかしらご本人に関わっていただけるように働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームでの生活だけで手一杯になってしまい、あまり行えていない。たまに末広商店街に行くぐらいである。商店街では、知っている人と再会する利用者さんもいる。	グループホームでの生活が10年となる入居者もあり、商店街への買い物や喫茶店へ出かけることで、なじみの人や場所との関係が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく孤立しないように席を工夫している。料理、洗濯等なるべく支えあっていけるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談があれば、気軽に応じるつもりでいるが、いまだにない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中でできる意向、希望を記録し、ミーティング等で話し合っている。困難な場合はなるべく本人本位に職員同士で話し合っている。	日常生活の中で聞いた希望や意向の言葉を個別記録にまとめ、ミーティング等で話し合っている。入居者が自分で出来るよう見守ったり希望に沿う支援を心がけている。実践については本人本位のケアが出来るように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用の初期の情報、サービス利用中で分かったことを個別記録に記入し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過ごし方、心身の状態、有する能力すべて個別記録に記入しており、変わったことがあれば順次変更していつている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医師の意見、希望を基に介護職員同士で話し合い、最終的に計画作成担当者が計画を作成している。	家族に入居者のニーズや状況の変化を説明して、家族の意見を聞いたり、必要な関係者の意見を反映し、3ヶ月に1回計画作成担当者が中心となってモニタリングを行い、6か月毎に計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	結果や気づきを個別記録に記入できるようになっており、職員なら誰でも閲覧できる。その記録を元にミーティングで介護計画の見直し等もおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに沿って現在の事業所の人員で行えることはなるべく行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職人さんの集まる会にお願いして、陶器のお皿をつくったり、阿波踊りを見に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師への意見、質問。医師からの意見、指導が行えるような関係を築けている。	本人、家族の希望を第一にしている。提携している内科医には月1回通院の介助を行い、変化のある時は家族へ報告している。提携医以外は家族に通院の協力を得ている。診察結果は家族から聞き内容を把握し普段のケアに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は利用していない。看護職もない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	特に関係作りは行っていないが、入退院時の情報交換、相談は頻繁に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人内での話し合いはあるが、本人、家族等地域の関係者とは話し合っていない。	家族からも「出来る限りホームで」という要望があり、「出来れば支援したい」という意向で法人内で設備や事業所の対応能力などについて検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修は行っているが、定期的な訓練は行っていない。実践力は職員の実力差が大きい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修、訓練は行っているが、職員の実力差が大きい。地域との協力体制は築けている。	避難手順の研修や年2回キッチンからの出火を想定して避難訓練を実施している。災害時は近隣住民が見守りをしてくれる協力体制が出来ている。昨年の目標達成計画の目標の週1回の訓練は実施出来ていない。	昨年の目標達成計画を再度計画に盛り込む意欲を持たれている。実施できなかった問題点を究明し、出来ることから実施していくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや、服装に気を使っている。ミーティングで毎月確認、新たな気づきの発表を行っている。	職員間で入居者の情報交換するときはイニシャルで呼び、他の入居者にわからないように配慮している。新たな気づきの発表を行うなど職員間で人格の尊厳やプライバシーについての意識を深め支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望、自己決定できるような言葉かけに気を使っている。ミーティングでも毎月言葉かけについて確認、新たな気づきがないか発表している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく一人一人の希望にそえるようにしているが、お風呂に入る時間、外出等行えないことは行えていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員の自己満足かもしれないが、なるべくその人らしいおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の決定から買い物、準備、片付けすべて職員と利用者共同で行っている。	遅番が入居者と相談して夕食と翌日の昼食の献立を決めて買い物に行く。職員は入居者の保有能力を活かしながら一緒に調理や配膳、片付けなどを行っている。盛付や食事を職員と一緒にいき、会話を楽しみながら食事をしている。	同じ食材が続かないよう配慮しているが献立バランスを見ると偏っている事もある。毎日決めるだけではなく週単位や月単位でも検討する事を望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の決定の時点で栄養バランスが取れた組み合わせを候補にいれるようにしている。個々の利用者さんの状態、習慣に応じて、とろみをつけたり、カロリーオフのジュースをだしたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者様全員口腔ケアを行うように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ使用の利用者さんは一人もいない。なるべくトイレで排泄していただけるように支援している。	チェック表で排泄パターンを把握し、個々のトイレ誘導を工夫している。夜間は3時間ごとに誘導している。声かけや定期的な誘導でおむつや尿取りパットを使わないで済むケアを継続している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	研修を行い、食事の献立、飲み物、運動に気をつけて個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様誰でも毎日入浴できるが、時間帯は好きな時に入る事ができない。13:30～20:00の間の空いているときだけしか入れない。	毎日13時30分から20時までの好きな時間に入浴できる。遅めの時間の入浴希望が多いが希望に沿うようにしている。入浴拒否のある入居者には着替えや洗顔、トイレ誘導などのタイミングを捉え上手な声かけをし、2日に1回は入浴出来るよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活、その時々状況にあわせて、いつでも休息、眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関する資料がまとめてあり、誰でも閲覧できるようになっている。個別記録で症状の変化、状態の変化も確認できる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの嗜好品、役割、楽しみごとなるべく理解し、可能であれば好きな食べ物、飲み物、暮らしのなかでの役割、楽しみごと行えることは行えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時の希望にそってなるべく出れるように支援している。普段いけないような場所はいまだにいけていない。	県外旅行のような遠出の希望には対応できていないが、入居者の希望を聞いて散歩、買い物、喫茶店などへ出かけている。法人内の行事などで外に出かけており、入居者に喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望した人はお金を所持し、買い物等できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については本人が耳が遠かったり、家族が望まなかったり、亡くなっている方に電話しようとする方が多く最近あまり行っていない。手紙についてもほとんど行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく不快や混乱をまねくような刺激がなくなる様に工夫している。季節感のある花をさして飾ったり、たまに季節感のある掲示物を壁に貼ったりしている。	テーブルやソファの配置を工夫し、安全に移動できる様に配慮をしている。入居者の作品をそれとなく自室の前に飾ったり、季節の花や行事の写真が掲示してある。不快な音や混乱を招くような刺激がなく、入居者同士が気兼ねなく過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間がせまく、あまり一人や少人数で気を使わなくてすむようなスペースがない。今の状態では共有スペースでは常に人の目がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた家具が多く、本人や家族と相談し、なるべく使い慣れたものを持ってきていただくようにしている。	布団や家具など入居者が使い慣れたものや好みものを持ってきている。家族の写真や自分の作品を飾るなど本人の希望に沿って居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ること、分かることを理解し、なるべく自立して物事が行えるように環境を整えている。リスクマネジメントの部分でもホーム内ではなるべく自立したうえでの安全を目指して環境を整えている。		